

- ◆ 福島財務事務所では、東日本大震災・津波原発事故から5年目を迎えるにあたり、福島県の喫緊の課題である、復旧・復興、風評被害払拭、震災・原発事故の記憶や教訓の風化防止に向けたイベント「ふくしま応援フェア&トークライブ」を平成27年3月に続き開催（27年12月19日）。
- ◆ 当所は、主催者として、日頃培ったネットワーク（経済界、教育機関、金融機関、マスメディア等）や「福島官公衛長連絡会」（福島市所在の国の出先機関・地方公共団体等で組織）等を通じて、約40の関係先の協力（産学官金言連携）を得てイベントを開催し、約1,200名の市民等が参加。
- ◆ 今回も、これまで復興・地域を支援してきた各機関と県民との絆を深め、「被災地を忘れない！」とのメッセージを発信。

1. 成果事例の概要等

- 福島財務事務所が財務省の総合出先機関として、地域の意見・要望を聞く中で、東日本大震災からの復旧・復興、津波原発事故による風評被害の払拭や風化防止を望む声が多く寄せられたことから、平成27年3月に当所主催の「復興応援！さとう宗幸トークショー」を開催。
- 27年3月のイベントの際にも、同様に風化防止等に対する継続的な取組を強く望む声が多く寄せられたことから、27年度も当所が中心となって、日頃から復興等に取り組む機関や「みやぎびっきの会(※)」など約40もの機関から協力を得て、27年12月19日に「復興・地域応援ふくしま応援フェア&トークライブ」を開催。約1,200名が参加。
(※) 3.11東日本大震災で被災した東北3県の子どもたちを支援する会で、さとう宗幸氏が代表理事を務めている。
- 開催当日は、福島県警察本部の「被災地の今」の上映、陸上自衛隊福島駐屯地音楽隊の演奏、地元のゆるキャラも交え、さとう宗幸氏ら地元の歌手3名の熱唱と続き、エンディングは、福島市長など関係機関のスタッフ、地元小学校が参加し、復興応援ソングを振付とともに合唱。会場がひとつになってふくしまから「被災地を忘れない」とのメッセージを発信。
- コンサートホールの通路や屋外において、25を超える機関から、復興の取組や子どもも楽しめるブースの設置、地場産品の展示・販売、関係機関の提供による福島県産野菜を使ったカレーの振舞い、珍しい災害関係車両の展示等が行われた。



カレーの振舞い

一般に馴染みが薄く事業執行官庁でもない当所が、日頃業務等で個々に得ている関係を活用して、一堂に会する機会を企画することで絆の輪を広げ、また、新たな絆を構築することができた。



2. これまでの取組の成果等

- 今回は、復興等に取り組む約40機関に参加を呼びかけ、マスメディア等の後援を受けたことで、前回の倍近い約1,200名の市民等の参加となった。
- 参加者のアンケート結果では、約8割の方々から「楽しかった」との評価。「手作り感あふれるイベントでよかった」「財務事務所がやるのは意外でしたがよかった。是非継続してほしい」「それぞれの機関の垣根を越えてまとめたことは素晴らしい」との声も。



イベントを通じて、各機関の紹介・取組、地域住民との触れ合い、音楽の力を活用した一体感、そして何よりふくしまからのメッセージの発信など、当所の想定を遥かに上回る満足度、評価を受けるとともに、各機関、県民の方々から「ぜひまた来年も」という多くの声があった。



3. 今後の課題と福島財務事務所の対応

＜今後の課題＞

- 同イベントを今後も継続した取組にしていく場合、当所の「身の丈に合った」企画としていくことも必要。

＜今後の福島財務事務所の対応＞

- 今回のイベントで培われた連携等を他の業務にも活用し、地域や各機関と一体感を持って業務運営にあたり、一日でも早い復旧・復興、地域貢献の一助となるように精一杯取り組んでいきたい。

地域の出先機関として、地域の声に耳を傾けつつ、財務事務所として何ができ、何が求められているのかを的確に把握して、地域連携・地域貢献につなげていきたい。